

南米沿岸における津波エネルギー分布

Distribution of Cumulative Tsunami Energy along the Pacific Coast of South America

羽鳥 徳太郎[1]

Tokutaro Hatori[1]

[1] なし

[1] None

南米の太平洋沿岸域では、しばしば大規模な津波が発生し、災害をもたらしてきた。本報告では、コロンビア～チリ沿岸を200km区間に分割し、最近97年間(1900～1996)と歴史津波(1562～1899)による、各区間の波高2乗累積値を求めて比較してみた。

解析の結果、最近97年間の累積値は、チリ南部が最大であり、全期間(1562～1996)では南米沿岸全域の30%に達している。近年、チリ北部の地震活動は低調であるが、歴史津波の累積値は南部に次いで大きい。今後活動が継続すれば、チリ北部600km区間では最近97年間の実測累積値が期待値より大幅に下回っており、将来津波危険度が高い地域とみなされる。

南米の太平洋沿岸域では、しばしば大規模な津波が発生し、災害をもたらしてきた。本報告では、コロンビア～チリ沿岸を200km区間に分割し、最近97年間(1900～1996)と歴史津波(1562～1899)による、各区間の波高2乗累積値を求めて比較してみた。

解析の結果、最近97年間の累積値は、チリ南部が最大であり、全期間(1562～1996)では南米沿岸全域の30%に達している。近年、チリ北部の地震活動は低調であるが、歴史津波の累積値は南部に次いで大きい。今後活動が継続すれば、チリ北部600km区間では最近97年間の実測累積値が期待値より大幅に下回っており、将来津波危険度が高い地域とみなされる。